

社団法人 私立大学情報教育協会
平成 21 年度第 4 回栄養学教育 FD/IT 活用研究委員会 議事録

- I. 日時： 平成 21 年 12 月 25 日（火） 16 時 30 分～18 時 30 分
- II. 場所： 私立大学情報教育協会 事務局会議室
- III. 出席委員：武藤委員長、市丸委員、酒井委員、小野坂委員、中川委員
井端事務局長、森下、恩田

配布資料

- 1. 本協会による分野別教育「学士力考察」の報告・提言について(平成 21 年 11 月 25 日)
- 2. 分野別 教育における学士力の考察の抜き刷り(p 1 英語学～ p 48 体育学)
- 3. 論文誌 「IT活用教育方法研究」贈呈について 第 12 巻第 1 号(2009 年 11 月)
- 4. 情報教育研究委員会及び分科会のイメージ

検討資料

- 0. 分野別教育における情報教育の検討について
- 1. ～5. 宿題：学生に身につけて欲しい IT 活用能力とそのための教育方法
(1. 中川、2. 高橋、3. 石崎、4. 酒井、5. 小野坂)

I 検討事項

- 1. 栄養学における情報教育について

本委員会では「平成 21 年度に作成された栄養学教育分野の学士力を実現するために、学生に身につけて欲しい IT 活用能力と技術力とそのための教育方法」に関して、従来の栄養士養成や資格取得等に特化したマニュアル的なものではなく、栄養学全体の発展性を考慮した学士力向上の実現を目指し、2 回の検討会を開催して提案事項を構築する。

今回は、具体的教育方法、教育内容、講義内容に関する宿題が委員に課され、提出された資料 1. ～5. の概要説明後、資料 4. を基に、カリキュラムの検討ではなく、教育改善のためにどのように IT を取り入れるか、最低基盤の詳細検討を開始することになった。

II 検討過程

- 1. 宿題の検討資料 1. 4. 5. について提出委員からの簡単な説明後、欠席委員の検討資料 2. 3 を含めて総合的に討議した結果、資料 4 の委員案を基本に考案することになった。
- 2. 配布資料 2. の分野別教育における学士力の考察の抜き刷りを参照後、当委員会では到達目標の設定を 1 つにしないが 4 つなど多すぎないようにすること、また、技能と知識活用を別にしないことなどを大枠に据え、2 本柱の到達目標を作成することとした。

3. 到達目標 1「栄養・食生活と健康・疾病に関する情報を収集・蓄積・分析し、活用できる。」

ここでは、情報を収集・蓄積し、活用はそれらを総合的に評価・判定する能力を養うことが重要であるということになった。また、到達目標としてどのような領域の情報にするのかに関しては、広義に「栄養・食生活と健康」とするのか、臨床栄養学とは異なる食事療法などの視点からの「疾病」も含めてより具体性を持たせるなど、いくつか見解が述べられ、討議の末「栄養・食生活と健康・疾病に関する」と明記した方が望ましいという結論になった。

4. 到達目標 1 の具体的到達度の測定として、4つの指標が設定された。

- ①「栄養・食生活と健康・疾病に関する情報の所在と構成・背景を知っている。」

まずは、種々な既存資料等の情報の所在と、それらがどのような構成・背景からの情報であるかを知っていることが前提になるとした。

- ②「インターネットを用いて、栄養・食生活と健康・疾病に関する適正な情報を検索し、選別できる。」

これは、インターネット上の玉石混交情報への接し方として、宿題検討資料 2、高橋案の 5、および 6、の目的に記述されている“多くの情報から正しい、信頼できる情報かどうか判断できる” 取捨選択能力を培う必要があるとなった。

- ③「選別した情報をデータベース化して、統計・解析ができる。」

さらに、官公庁の調査報告書等以外に、最新の国際的な文献検索も含めた多数の情報を活用する能力を強化するためには、“どの程度までのことに対応する能力を培うのか” 議論が百出したが、統計処理して数量的解析できることが必要であるとなった。

- ④「多様な情報通信技術を用いて、効果的なプレゼンテーションができる。」

解析した情報・自分の考え方などの独創的な情報伝達媒体は、日進月歩の多様な情報通信技術を活用して作成し、対象者の理解を深めるのに効果的なプレゼンテーション能力を高めることが必要であるとなった。

5. 到達目標 2「栄養マネジメントに必要な専門的な情報活用ができる。」

栄養マネジメントでは、個人および集団の栄養状態の判定・問題解決のために最適な栄養ケアを実施するのに必要な専門的な情報を把握・活用できることが必要となる。

6. 到達目標 2. の到達度の測定としては、6つの指標が設定された。

- ①「アセスメントに必要な基本情報を知っている。」

栄養アセスメントに必要な基本情報の意味を理解した上で、必要なデータを入力することができる。

- ②基本情報をデータ化できる。

入力した情報内容を把握・整理し、データ化して活用できるようにする。

- ③簡単なアプリケーションソフトを用いて解析・評価できる。

データは適切なアプリケーションソフトにより解析し、評価・判定した上でケアプラン

に導入する。

④栄養指導用ソフトを用いて、ケアプランを作成できる。

栄養補給方法では、栄養指導用ソフトにサイクルメニュー等をデータベース化し、ケアプランの作成に活用する。

⑤対象特性別アセスメント・ケアプラン情報を発信できる。

栄養ケアは、個人・集団、健常者・傷病者、ライフステージ別など提供する対象者に適切な栄養管理となるよう、種々なIT活用によりアセスメント・ケアプラン情報を積極的に発信して実施する。

⑥結果のモニタリング、評価、フィードバックに情報通信技術を活用することができる。

ケアプラン実施による効果は、いくつかのモニタリング指標の情報を入手し、蓄積している情報と比較して評価・判定する。その結果は、ケアプランにフィードバックし、よりよいプラン作成の新たな情報として蓄積とすることができる。

Ⅲ 次回は内容方法を検討するが、その状況を受け、今回検討した指標項目・文言等の変更のする可能性を含めて検討する。